



とらいあんぐる



2018 年 1 月 ・ 2 月

一音会ミュージックスクール発行

「お母さんと呼ぶ」

母が亡くなって、1月26日で6年になります。

この6年間は、長い長い月日でした。

夢の中で、何度も、母に会いました。

数え切れないくらい、会ったと思います。

亡くなって数年間は、夢からさめた時、「もう現実世界では会えないんだ」、

「どんなに願っても、もう2度と会えないんだ」という、ごくあたり前の事実のうちめされ、ひどく落ち込みました。

母の夢を見た翌日は、1日中、気持ちはずんでいました。

しかしここ数か月は、夢の中で母に会い、さめた後も、「つかの間、会えて良かった」と、少しだけ思えるようになりました。

もちろん、さびしさ、悲しさが、多くを占めます。

しかし、心があたたかくなるような、そんな気持ちがほんの少し混ざりようになったのです。

その大きな変化は、私を驚かせます。

以前、夢の中での私は、母が亡くなっていることを忘れていました。だから

ら夢からさめた時、現実とのギャップに、ショックを受けるのでした。

今は、夢の中でも、私は母が亡くなっていることを知っています。夢の中でも、「ああ、これは夢なんだ・・・」と、なんとなく分かっているのです。

だから、夢の中で会うと、それがつかの間であることも分かります。夢なのですから・・・。

母に会うと、つかの間、会えた嬉しさに胸がいっぱいになり、私は何もいえなくなります。

「はやく何かいわないと、夢からさめてしまう！」と焦ります。でも、焦るばかりで、言葉は出てきません。

母も何もいいません。

焦る気持ちのまま、夢からさめてしまいます。



さめた頭で、私はいつも考えます。

「さて、母に何をいうべきだろう？」と。

伝えたいことが、いっぱいあります。ありすぎて分からないのです。

この6年間、本当に長い月日でした。毎日、毎日、母に相談したいことが、たくさんおこりました。

ここ1週間のことだって、何から話したら良いか分からないくらいです。

まして6年間です。

思えば、本当にたくさんの方がありましたが、どれも母の知らないできごとばかりです。

母が亡くなった時、小学生だったキョウコが、中学生になり高校生になり、この春、とうとう大学生になろうとしているのですから。

伝えても伝えても、足りない気がします。何を伝えても、「一番、伝えたいのは、そんなことじゃない！」という気持ちになるのです。

ある時期、「次に、夢で母に会った時、なんといおうか？」と、私は真剣に考

えていました。でもなかなか、考えがまとまりません。

そんな矢先、私はあるエッセイストの文章を読み、1つの答えを得たのです。

そのエッセイストは、自身のお父様をなくされ、1年ほどたった時に、ある問いに答えていました。

「なくなったお父様に言葉をかけるとしたら、どんな言葉を選びますか？」

そのエッセイストの答えは、おそらく多くの方にとっては意外なものです。

そのエッセイストは、「お父さん」という言葉を選んだのです。

ただ、「お父さん」と呼びたい、と。

私は、その気持ちが痛いほど分かり、胸がつまりました。

「ああ、私も！ 私もそうです！」

思わず、声が出ていました。

私も母に言葉をかけることができたなら、「お母さん」といいたいと思いました。顔を見て、何度も何度も「お母さん」と呼びたいと思います。

それができたら、どんなに幸福か、

と思います。

それ以外の言葉はいらない、とも思っています。

「お母さん」

母が生きていた6年前までは、1日に何十回と発していた言葉です。

「お母さん、あのね」

「お母さんは？」

「ねえ、お母さん」

まだこの先、何十年も、「お母さん」と呼び続けるつもりでしたし、そのはずでした。

母がこの世から消えて、思えば私は「お母さん」という言葉を使わなくなっていました。

私は、それまでの生涯、1日も欠かさず、「お母さん」という言葉を口にしていたというのに。



「お母さん」と呼ぶことをやめようと思ったことが、実は1度だけ、ありました。

私がすでに、他の先生方に混じって、一音会で働きはじめたばかりの頃です。

当時、私の自宅の一部は、一音会の本部を兼ねていて、私の家には数人の先生方が常にいる、という状態でした。

他の先生方は、当然のことながら、母のことを「江口先生」と呼んでいました。

私は、そんな場面で、自分だけ「お母さん」と呼ぶことが、恥ずかしくなりませんでした。

「お母さん」という呼び方は、なんとも子どもっぽく、他の先生方の手前、気恥ずかしかったのです。

また、生徒さんやご家族がいる場で、母と私の関係を知らない方に、「あ、江口先生のお嬢さんなんだ」と知られることもイヤでしたし、母との関係を誇示しているかのように誤解されることも、イヤでした。

そもそも、仕事の間なのに、「お母さ

ん」と呼ぶことは、公私混同のような気もしました。

私は、それまで仕事の間で母を呼ぶ時、「あの～」とか「ちょっと・・・」などという声かけで、ゴマかしていたのですが、ある日、あまりの呼びにくさから、決意して「江口先生」と呼んでしまうことにしました。

母と2人きりの時だけ、今まで通り、「お母さん」と呼び、他の方がいる時は、「江口先生」と呼べば良いのです。名案だと思っていました。

ところが、その日のうちにクレームが入ります。

母本人からのクレームです。

たかが呼び名です。呼ばれる側が慣れてくれれば良いことです。

私は、「お母さん」という呼び方が子どもっぽくて気恥ずかしいことや、公私混同の印象があってイヤだ、ということ、説明しました。

でも、母は納得しませんでした。

『お母さん』って呼んでちょうだい！」

一点ばりです。

私はまた、説得を繰り返すことになり
ます。

長いやり取りの最後に、母はポツリ
と、こんなことをいいました。

「私のことを『お母さん』って呼ん
でくれる人は、この世にたった一人し
かないのに・・・」

その声は、たまらなくさびしそうで
した。

私は、母の言葉に頭をなぐられたよ
うなショックを受け、たかが呼び名と
軽く考えた自分を恥じました。

そうだった・・・この人は、たっ
た一人の娘を病気で失ったのだった・・・
その後、出産を医師から止められてい
たのに、もう一度「お母さん」になり
たい一心で、私を産んだのだった・・・
その結果、ピアノを弾くことも歩くこ
ともできない身体になってしまったの
だった・・・。

母は、誰よりも「お母さん」になり
たい人だったのでした。

私がそれを一番、理解していなくて

はならなかったのに・・・。

その瞬間、私は、「もう他の人からど
う思われてもいい」と思いました。

母、その人が望むようにしようと思
ったのです。

かくして、私は四十すぎまで、人前
でも「お母さん」と呼び続けたのです。

「お母さん」と呼べたことの幸せに、
今、気づきます。

私にとっても、「お母さん」と呼べる
人は、たった一人しかいませんでした。

「お母さん」と呼べること、呼べる
人がいること、それがいかに幸せなこ
とか、今ならよく分かります。

(江口 彩子)



◆今年もよろしく願いいたします

新しい年になりました。

生徒さんやご家族の皆さまにとって、今年も素晴らしい1年になりますようにと、心から願っています。

スタッフ一同、今年も生徒さんお一人お一人が、それぞれの目標をかなえる年になりますよう、微力ながら、全力で指導にあたらせていただきます。

ご家族の皆さまのサポートも、全力でさせていただきます。お困りのことやお悩みのことがおありでしたら、ご遠慮なく率直にご相談ください。

今年もどうぞよろしく願いいたします。



◆「ピアノ・トライ」がはじまります

今年最初のイベントである「ピアノ・トライ」が、1月末より、スタートします。今は、皆さん、仕上げに向けて、練習を重ねていらっしゃると思います。きかせていただくのが楽しみです。

今年もたくさんの方にお申し込みをいただきました。あまりにも早く、満員となってしまった日は、枠を急遽、追加しました。現状、希望通りでない方や、お申し込み後にご予定が変わってしまわれた方は、一度、本部までお問い合わせください。もしかしたら、よりご都合にあった形でご案内できるかもしれません。〔03-5966-7711：担当・矢島、伊藤〕

また、この時期は、風邪をひきやすい季節でもあり、体調をくずしてしまう生徒さんが出てくることが予想されます。当日、体調が悪い場合には、後の日程に振り替えることができますので、どうぞ無理をなさらず、ご相談ください。

今年度の「ピアノ・トライ」は、下記のとおりです。お時間につきましては、お申し込みくださった方に、個別にご案内しています。

- | | | |
|---|----------------|--------------------|
| ① | 1月27日(土 2・4) | 初級・中級(山本先生予定) |
| ② | 1月28日(日②) | 初級・中級(夏目先生予定) |
| ③ | 2月4日(日) レッスンなし | 初級・中級(能勢先生・夏目先生予定) |
| ④ | 2月12日(月・祝) | 初級・中級(能勢先生予定) |
| ⑤ | 2月17日(土 1・3) | 初級・中級(山本先生予定) |
| ⑥ | 2月18日(日①) | 中級～(夏目先生) |

「ル・コンセール」は、下記のとおりです。

1回目：2月11日(日) 講師演奏 西村 徳恵先生

2回目：2月25日(日) 講師演奏 西村 徳恵先生

講師演奏の西村徳恵先生は、この4月から一音会の先生になられる先生です。講師演奏の曲目は、リヤードフ作曲「舟歌 作品44」です。

「ル・コンセール」は、ご出演の生徒さんやご家族以外の方でも、ご入場いただけます。入場無料です。どうぞお気軽に足をお運びください。



◆「フォルテの会」を開きます

2月4日(日)に、「フォルテの会」を開きます。「フォルテの会」は、ヴァイオリン、フルート、作曲、声楽などの副科と、「うたくらぶ」(合唱)の生徒さんたちの発表会です。場所は「ひびきホール」で、11:30開場、12:00開演です。三浦奈美子先生の講師演奏(ソプラノ独唱)も予定しています。入場無料ですので、お気軽に足をお運びください。特に、副科に興味をお持ちの生徒さん、ご家族の方には、ぜひお越しいただきたいと思っています。



ひびきホール：西部池袋線「東長崎」駅北口より徒歩7分 タローズビル3F

1月よりスタートしている教室のキャンペーンの1つに、「声楽のレッスン、1レッスン(30分個人レッスン)、ワンコイン(500円)」というキャンペーンがございます。「フォルテの会」をきっかけに、ご興味をお持ちになった方は、ぜひ体験レッスンをおためしください。くわしくは、現在お配りしている「新年度にむけての資料」をご覧ください。

もちろん、おとなの方も対象です。ご家族の皆さんも、歌ってみませんか？

「うたクラブ」は、随時、体験無料です。「フォルテの会」の発表の後、練習曲が変わります。おはじめいただくとしたら、もっとも良いタイミングだと思います。

◆新年度のレッスン希望表をご提出ください

現在、「今年のあゆみ」とともに、「新年度資料冊子」「一音会ガイドブック」「2018年度変更希望表」「キャンペーンのお知らせ」「リトミックのご案内」「月謝表」を、お配りしています（お月謝は今年度と変わりません）。

この時期、皆さまからご質問やご相談を多くお受けする中、こちらのご説明が不足していることを、反省いたしました。今年は、資料を何点か新たに作成しています。

「一音会ガイドブック」は、新年度のレッスンをお決めいただくにあたり、よく頂戴するご質問とその答えを載せています。お時間のある時に、ぜひご一読ください。

もちろん、それにカバーされないご質問やご相談もあると思います。そうしたご質問につきましては、直接、お問い合わせください。生徒さんお一人お一人のご事情をふまえて、ご相談に乗らせていただきたいと思います。

「変更希望表」は、来年度の、レッスン科目、曜日、時間のご希望をおうかがいするものです。たいへんお手数ですが、全員の方にご提出いただきます。変更をご希望ではない場合にも、「変更なし」として、ご提出いただきたいと思います。

新年度からのスケジュールが、はっきりとは分からない場合には、仮の希望をいったんお出しください。スケジュールがわかり次第、追加・訂正用紙でご希望を改めてお出しただければ大丈夫です。

なお、曜日や時間を変更する場合には、ほとんどの場合、担当が変わることをご理解ください。現在、その日時で受けていらっしゃる生徒さんが、最優先となるためです。もちろん、ご希望の日時の付近で、現担当の手をあげることができそうな場合には、できるかぎり担当を変えずにお組みするよう、努力いたします。

また、担当が変わる場合にも、個々の生徒さんに、一番適したスタッフが当たるよう、考慮いたしますので、ご安心ください。

ご希望は、担当の先生の目にふれることなく、本部で処理します。ご遠慮なく、率直なご希望をお書きください。

希望表は、2月18日（日）までに、添付の封筒に入れて、ショパンはうす受付にご提出ください。本部あてに郵便でお送りいただくこともできます。

本部住所： 〒171-0051 豊島区长崎3-19-1

◆客員教授プリドノフ先生ご夫妻のスケジュール

3月に客員教授のユージン・プリドノフ先生、エリザベス・プリドノフ先生のご夫妻が来日されます。プライベートレッスン、コンサート、オーディションを予定しています。

日程は、以下のとおりです。コンサートの場所は、「ひびきホール」です。コンサートの時間やプログラムにつきましては、追ってお知らせいたします。コンサートの日は、ぜひご予約をあけておいてください。

レッスン	: 3月15日(木)・16日(金)
コンサート	: 3月18日(日)
オーディション	: 3月21日(祝)

レッスン日は、木曜日、金曜日として、受け付けておりますが、土曜日をご希望の場合は、ご相談ください。おそらく土曜日でもお組みできます。

客員教授の先生のレッスンは、大きな生徒さんや上級の生徒さんだけのものではありません。五線読譜が完了していれば、どなたでもお受けいただけます。過去、未就学の生徒さんで、レッスンを受けてくださった方も、多くいらっしゃいます。

レッスン用に大きな曲をご用意いただく必要もありません。普段のレッスンで進めている曲で大丈夫です。

レッスンは英語です。通訳の要、不要も、あわせてお申し込みください。ご質問、ご相談は、本部でもお受けできます〔本部電話：03-5966-7711・担当：谷口〕。

30分レッスン……レッスン料(12500円)＋通訳(2500円)→15,000円

45分レッスン……レッスン料(18750円)＋通訳(3750円)→22,500円

60分レッスン……レッスン料(25000円)＋通訳(5000円)→30,000円



前回、プリドノフ先生のレッスンを受けた増田椿先生が、感想文を寄せてくれました。

「ユージン・プリドノフ先生のレッスンを受けて」

ユージン・プリドノフ先生は私が一音会に通っていた当時からいらしているのは存じ上げておりました。ですが、当時の私は内気で「私なんか外国人の先生にピアノを習うなんてハードルが高すぎる」という気持ちがあり、お目にかかったことがありませんでした。

しかし、今回勇気をだしてレッスンを受けてみたところ、自分が予想していたレッスンとは180度違ったものでした。

外国人の先生のレッスンを受けるのは私にとって初めての経験でした。通訳をお願いしていましたが、英語もわからないし、どんなレッスンになるのかと、楽しみと不安で心臓を鳴り響かせながらレッスン室の扉をあけました。その瞬間、サンタクロースのような可愛らしい男性が目の前に飛び込みました。

「Nice to meet you !」それが、ユージン・プリドノフ先生との初対面です。

今回はベートーヴェンのピアノソナタ第27番全楽章を聴いていただきました。この曲は私の大好きな曲ですが、テクニックはさほど難しくない反面、表現の仕方が非常に難しく、悩んでいたのは是非アドバイスをいただきたいと思っておりました。

たった60分の中でプリドノフ先生から教わったことは曲のとらえ方、表現方法、運指方法、ベートーヴェンについてなど数え切れませんでした。特にその中でも印象に残った言葉は「心を解放する自分を許してあげること」です。私は、ありのままの自分を出せずに悩んでいました。自分の感情を、音楽を介して表現することは難しいけれど、自分のありのままを愛し、それをそのまま出せばいいのだと、そんなことを教えてくださったのです。

ピアノソナタ第27番は、ベートーヴェンの耳が本格的に聞こえなくなってから書いた作品です。第1楽章は、そんなベートーヴェンの苦しみ、悲しみがまさに写し出されている、と私は感じ取りました。ピアノ曲ではありますが、この曲を弦楽四重奏のように弾くと音楽の幅が広がるとおっしゃっていました。プリドノフ先生が弾くと、ピアノで弾いているはずなのに色々な楽器の音が聞こえてきて、スケールが広がり、なんとも不思議でした。

プリドノフ先生は世界中でご活躍されている方です。こんなにも素敵な方が間近で自分の演奏を聴いてくださって、教えてくださることは本当に貴重な経験だったと感じました。

また、プリドノフ夫妻によるコンサートも素晴らしく、楽しませていただきました。
ありがとうございました。 (増田 椿)

◆ 「ジュニコン・オーディション」にご参加ください

「第12回ジュニアコンサート・オーディション」を開催します。生徒さんの、音楽性、実力、将来性、すべてを総合的に評価する審査となります。

以下が、エントリーの要綱です。

- ① 「ジュニコン・オーディション」は、「ひびきホール」でおこない、公開とします。たくさんの生徒さんにオーディションをきいて、学んでもらいたいと願っています。
- ② 曲目は自由ですが、演奏時間は6分～12分程度とします。組曲や変奏曲の抜粋、ソナタの楽章の抜粋、短い曲を何曲か組み合わせることはかまいません。6分～12分は目安です。多少オーバーしてもかまいません。
- ③ エントリー資格者は、2018年4月時点で、小学4年生～高校3年生の、一音会に在籍する生徒さんです。
- ④ エントリーするための費用は15000円です。これは全額、審査員の先生ご夫妻や通訳者へのお礼にあてられます。もし、選ばれて「ジュニア・コンサート」に出演することになったら、コンサート出演費用5000円が必要になります。
- ⑤ 「ジュニア・コンサート」は、4月23日(月)夕方、「ゆめりあホール」(西武池袋線・大泉学園駅前)でおこないます。
- ⑥ 強制ではありませんが、オーディションの前に、プリドノフ先生ご夫妻のどちらかのレッスンを受けて、的確なアドバイスをいただいているのがよいと思います。ただし、合否は当日の演奏のみで決まりますので、「先生ご夫妻のレッスンを受けなければ合格しない」などということはありません。

※学校の生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp

電話：03-3954-9999

※お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

※ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。